



研究部会報告

● 不確実性下のモデル分析とその応用 ●

・第14回

日時：7月10日(土) 14:00~17:00

出席者：15名

場所：九州大学経済学部5階510A演習室

テーマと講師：

(1)「A heuristic approach to discover the most effective measure in one-to-many relationship」

伊藤孝夫(宇部高専経営情報学科)

テキストなどにおけるキーワードの同時生起から、いくつかの評価指標を作成してその関連性を分析する方法が示されている。本報告では、この指標作成におけるパラメータの調整方法、具体的には指数の大きさを変化させて、最もふさわしい数値を探索する方法を提案した。応用例として、新聞記事に見られる都市の名前の関連性分析を示した。

(2)「在庫管理と情報共有の効果について」

大久保幸夫(鹿児島国際大学経済学部)

在庫管理における情報共有モデルの基本として示されているLS(TLee, SO, Tang)モデルを拡張した。具体的には、費用最小化の原則から補充目標値の決定へ変更し、毎期の発注をr期間ごとの発注に変更して、この間の需要生起も考慮することである。結果としてLSTモデルの一般化可能性を確認し、その性質の詳細な分析が可能となった。

● 21世紀モノ造りマネジメント ●

・第4回

日時：7月23日(金) 18:00~20:00

出席者：35名

場所：青山学院大学青山キャンパス総研ビル9階第16会議室

テーマと講師：

「最適化技術のスケジューリング問題への応用」

今泉 淳(東洋大学経営学部)

数理計画問題に対するラグランジュ緩和法および列生成法の適用方法とその特徴についての解説の後、同一並列機械ロットスケジューリング問題への列生成法の適用についての具体例と計算結果について詳しい紹介があった。

● 意思決定とOR ●

・第7回

日時：7月24日(土) 14:30~17:00

出席者：14名

場所：金沢大学サテライトプラザ講義室

テーマと講師：

(1)「AHPの応用に関する考察——対比較の回数の削減について——」

黒澤竜哉(富山大学大学院)、中島信之(富山大学経済学部)

T.L.サーティによって発案されたAHPは、まだまだ問題点が多い。例えば一対比較の回数の問題がある。項目(基準または代替案)の数が多くなれば、一対比較の回数も増える。回数が増えすぎれば、結果の信頼性が落ちる。本発表では、高精度を保持しながら一対比較回数を減らす方法を、数値実験を通じて探った。

(2)「あいまいさvaguenessの系譜を尋ねて——ギリシア時代から現代まで——」

中島信之(富山大学経済学部)

われわれにとって普通「あいまいさ」とはファジィネスfuzzinessのことである。だが、哲学の世界では、ヴェイグネスvaguenessのことを指す。本発表では、vaguenessのあいまいさに絞って、その起源を尋ね、その系譜を明らかにすることを試みた。